

っても最低1カ月に1回、数字をまとめる月次決算に取り組むべきです。

2. 資金繰りが安定する

月次決算を通じて現金の流れを把握することで、資金繰りの安定が図れます。毎月のキャッシュフローを確認し、必要な資金を予測することで、資金不足に陥るリスクを回避できます。また、将来の投資や大きな支出を計画する際にも、直近の月次決算のデータを参考にすることで、より正確な判断ができます。

また、今期の納税額も早い段階でシミュレーションできますので、多額の納税額が発生することがわかれば、納税資金としての借入や資金繰りの対策についても打てる手が格段に多くなります。

3. 計画に対する進捗の確認ができる

月次決算を行なうことで、計画に対して適切に進捗を把握することができず。

計画の達成度合いによって部門ごとの評価や賞与の支給基準も社員に明確に示すことができるようになります。透明性のある経営姿勢を示すことができ、全社員の士気の上昇や一体感を作ることに繋がります。

4. 対外的な信頼が得られる

定期的な月次決算の導入は、取引先や金融機関からの信頼を得ることに繋がります。単純に早く数字を報告できるといふメリットだけではなく、経営者が財務状況を感じてではなく、常に数字で理解しているという安心感を持つてもらえるからです。

例えば金融機関としてお金を貸す側の立場になれば、会社の現状を説明す

るのに1年前の決算書や半年前の試算表を使って説明する会社と、先月の結果を毎月数字で報告できる会社では、どちらを信頼してお金を貸したいかは明確です。

月次決算は単なる書類作成に留まらず、企業の健全な経営を支える基盤になるのです。

月次決算書⇔管理会計で あることを押さえておく

月次決算の大切さを確認したうえで、もう一点押さえておきたいことがあります。それは、月次決算書では、「管理会計」の手法を取り入れることが大切だという点です。

月次決算書のベースとなるのは試算表です。ただし、「試算表を作っている⇨月次決算をしている」ということ